

Dante Domain Manager

VMWare ESXi® インストールガイド

目次

1. VMWare ESXi®のインストール手順	5
1.1. 概要	5
1.2. ハイパーバイザのシステム要件	5
1.3. VMWare ESXi®上でのDDMバーチャルマシン構築	5
2. DDM管理者メニュー	10
2.1. Network Diagnostics	10
2.2. Set Hostname	10
2.3. Configure Interfaces	10
2.4. Set NTP Servers	10
2.5. Set Update Key	11
2.6. Fix LMX Time Gone Backwards	11
2.7. Additional Packages (BETA)	11
2.8. Download Crash Logs	11
2.9. Branding Mode	11
2.10. Shutdown/Reboot	11
2.11. Quit	11
3. DDMのアクティベートおよびセットアップ	12

1. VMWare ESXi®のインストール手順

1.1. 概要

Dante Domain Manger (DDM)は、DDMアプリケーションに合わせて設定されたLinuxOSを含んだISOファイルとしてパッケージされています。

DDMをインストールするには、ベアメタル(OSの全く入っていない)PCにブータブルUSBドライブかブータブルCDディスクを使ってインストールするか、ベアメタルでないPC上にバーチャルプラットフォームを立ち上げ、そこからISOファイルをインポートしてインストールする方法があります。本ガイドでは、バーチャルプラットフォームであるVMWare上に新しく仮想マシンを作り、DDMのISOファイルをインポートする方法について説明します。

1.2. ハイパーバイザ環境のシステム要件

DDMのライセンス形態はシルバー、ゴールド、プラチナの3種類あります。それぞれのエディションは扱えるデバイス数およびドメイン数が異なるため、どのエディションを使用するかで求められるシステムリソースの要件も変わります。以下がその最低要件となります。

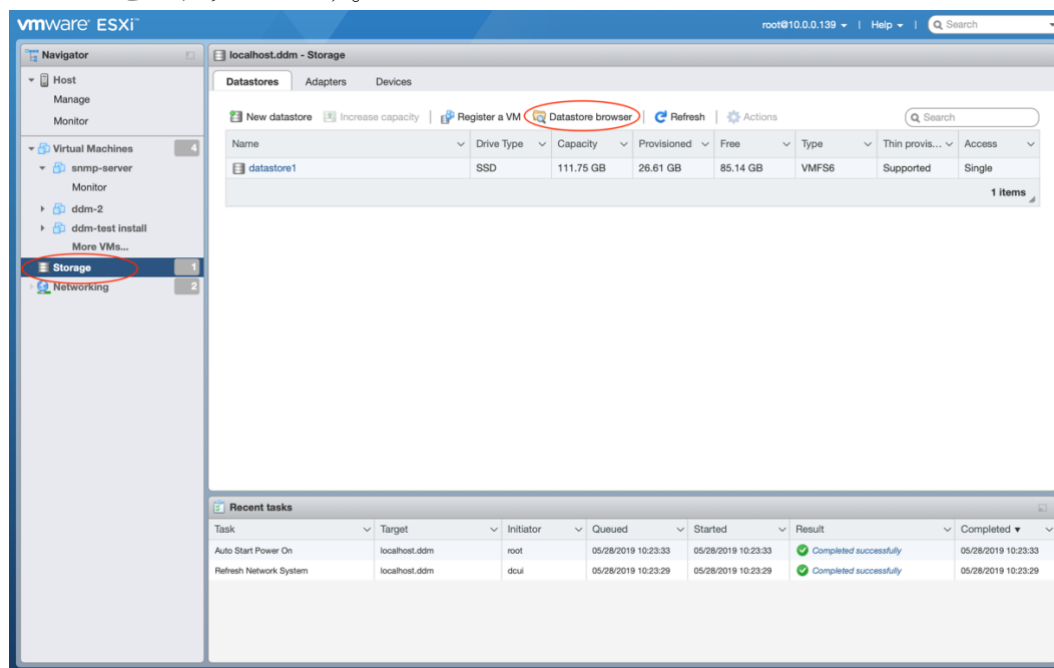
- シルバーおよびゴールドエディション：最低 2CPU、4GBのRAM領域
- プラチナエディション：最低 2 CPUs、8GBのRAM領域
- 200以上のデバイスを扱う場合：最低16GBのRAM領域を推奨

ご参考までに弊社デモ機のDDMサーバーPCのスペックを掲載いたします。

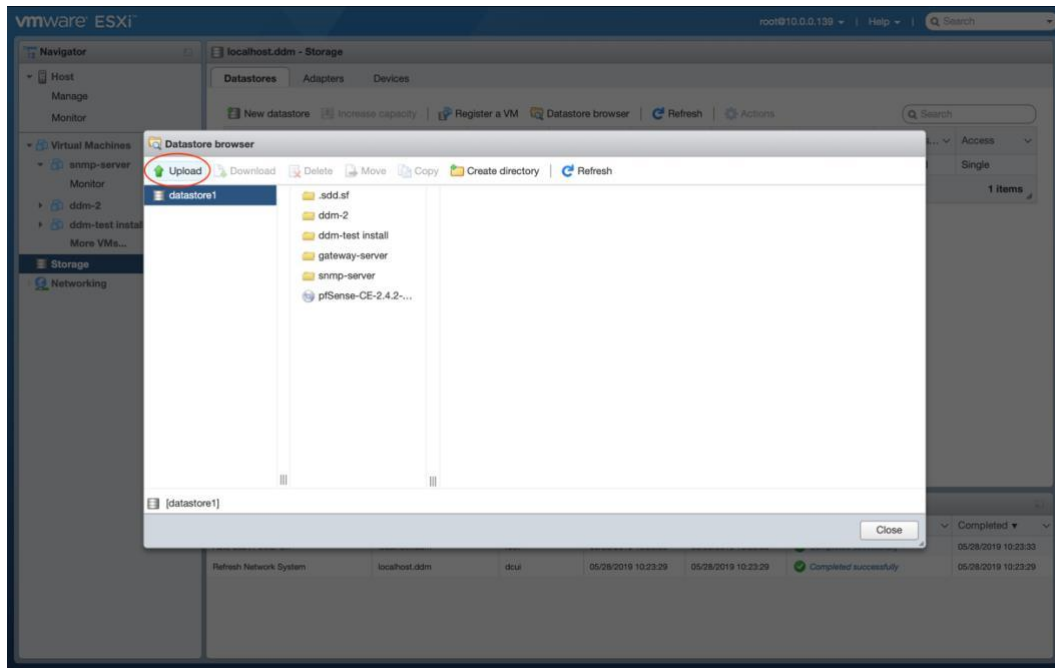
- ベアボーンPC
 - Intel NUC Kit (型番:BOXNUC7i3BNH)
- CPU : Intel® Core™ i3-7100U Processor (3M Cache, 2.40 GHz)
- メモリ : 8GB
 - SODIMM DDR4 PC4-17000 8GB (型番:SP008GBSFU213B02)
- ストレージ : 250GB
 - WD Blue 3D NAND SATA SSD M.2 (WDS250G2B0B-00YS070)

1.3. VMWare ESXi®上でのDDM バーチャルマシン構築

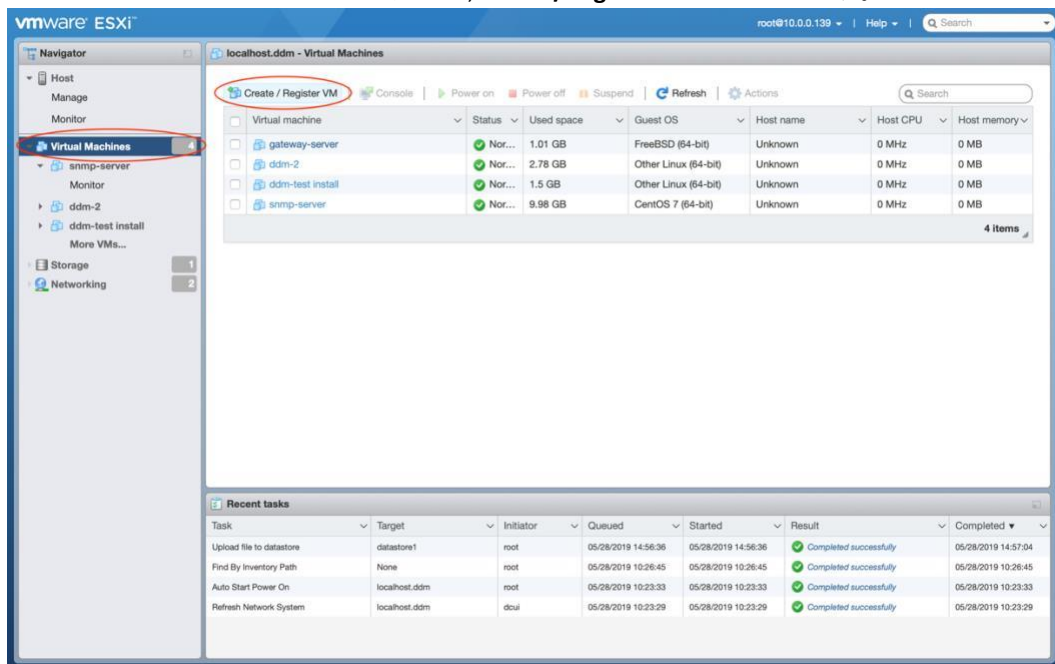
1. ウェブブラウザを用いてVMWare ESXi®にログインした後、**Storage**メニューから**Datastore browser**をクリックします。



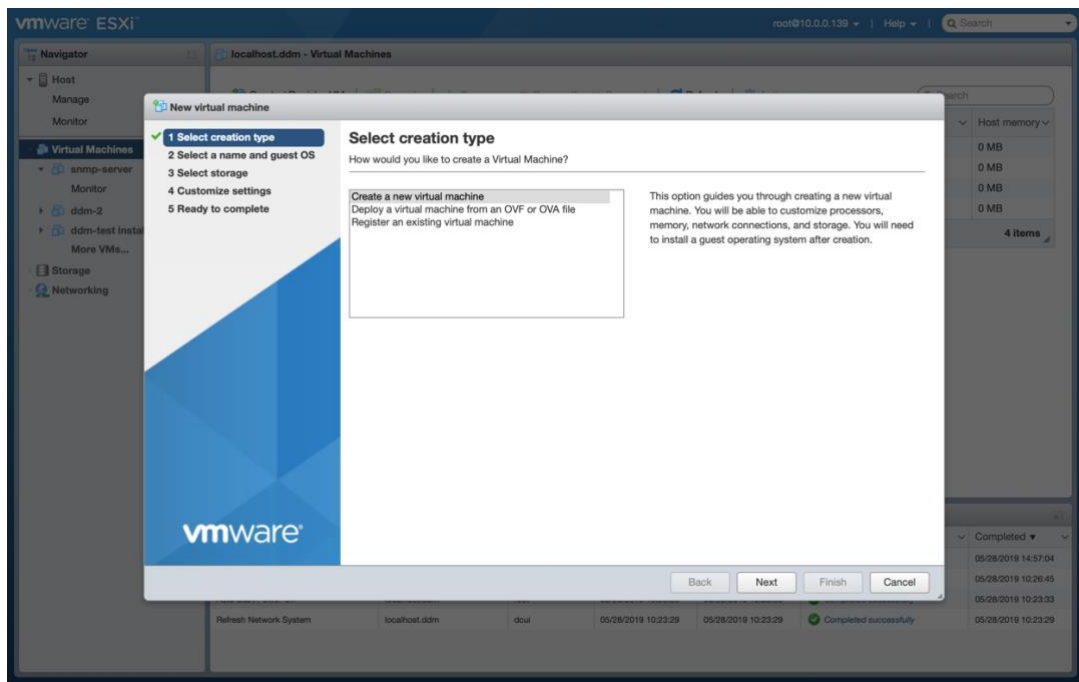
2. **Datastore browser**画面上で **Upload**ボタンをクリックし、外部USBやCDドライブなどに保存したDDM ISO ファイルをフォルダブラウザから選択します。アップロードしたら **Datastore browser**画面を閉じます。



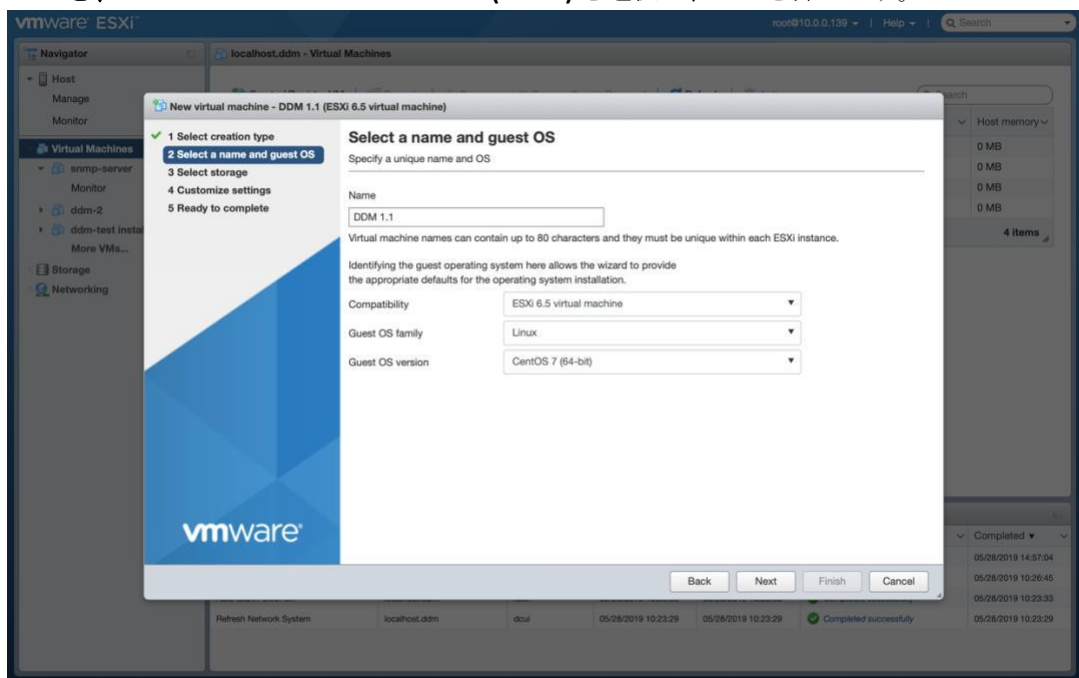
3. **Virtual Machines** メニューをクリックし、**Create/Register VM**を選択します。



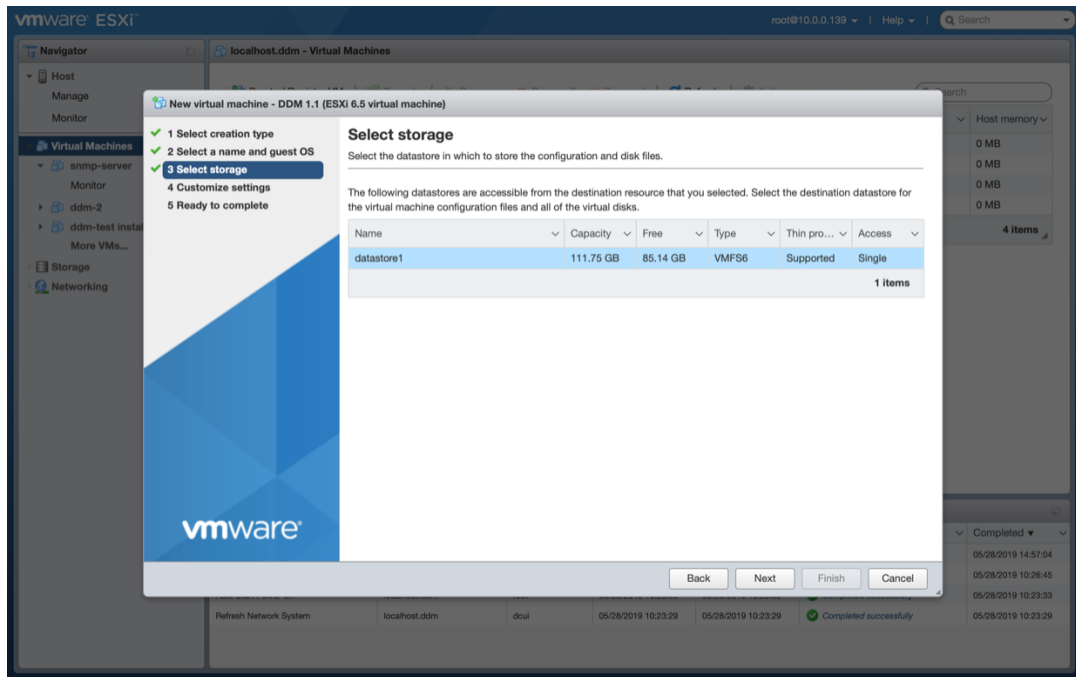
4. New Virtual Machine画面が表示されます。最初のページでは **Create a new virtual machine** を選択し、**Next**をクリックします。



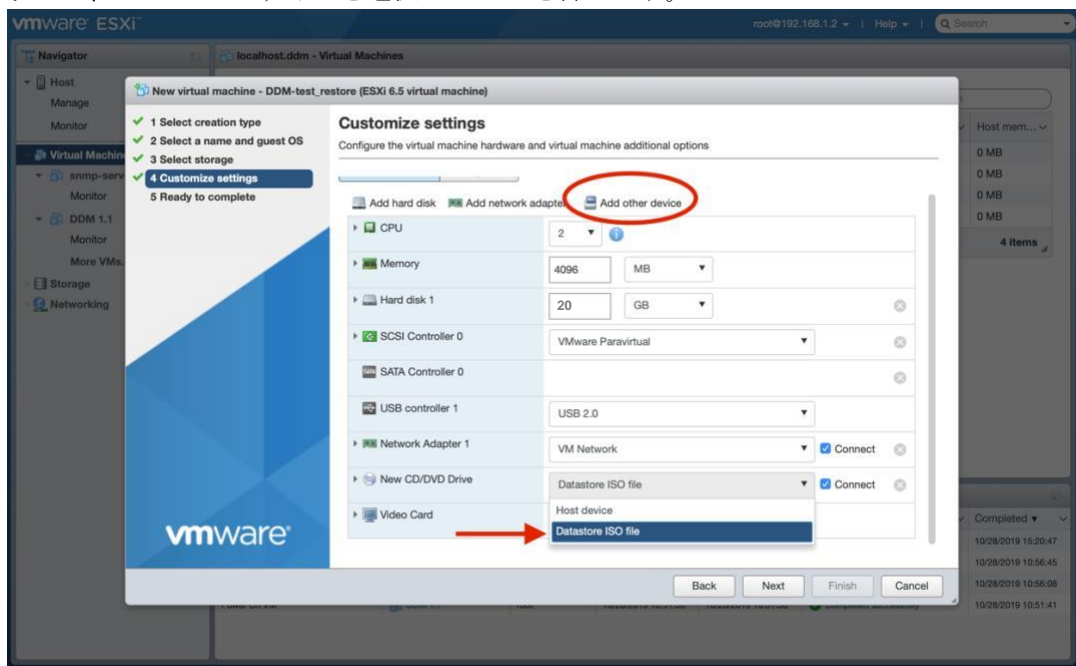
5. 次のページではバーチャルマシンの名前を入力します。その後 Guest OS Familyとして **Linux**を、Guest OS versionとして**CentOS 7 (64-bit)** を選択し、Nextを押します。



6. 次のページで**datastore1**を選択し**Next**をクリックします。

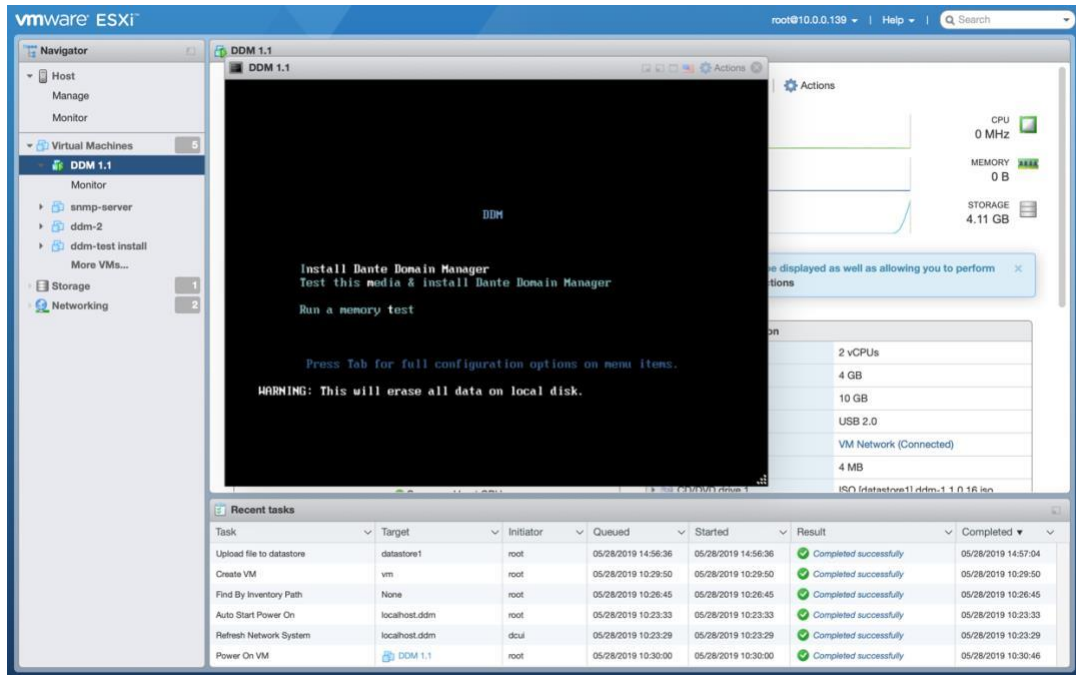


7. 次のページではDDMのエディションや扱うDtanteデバイス数によって設定を変える必要があります(詳細は1.2 章を参照ください)。最低スペックとして2 CPU, 4096 MB のRAM, 20 GB ストレージが必要です。
8. 仮想マシン内にメニューにCD/DVD driveの欄がなければ、**Add other device**メニューを選択します。追加されたNew CD/DVD Driveのドロップダウンメニューから **Datastore ISO file** をクリックし、DDMのISOファイルを選択して **Next**を押します。



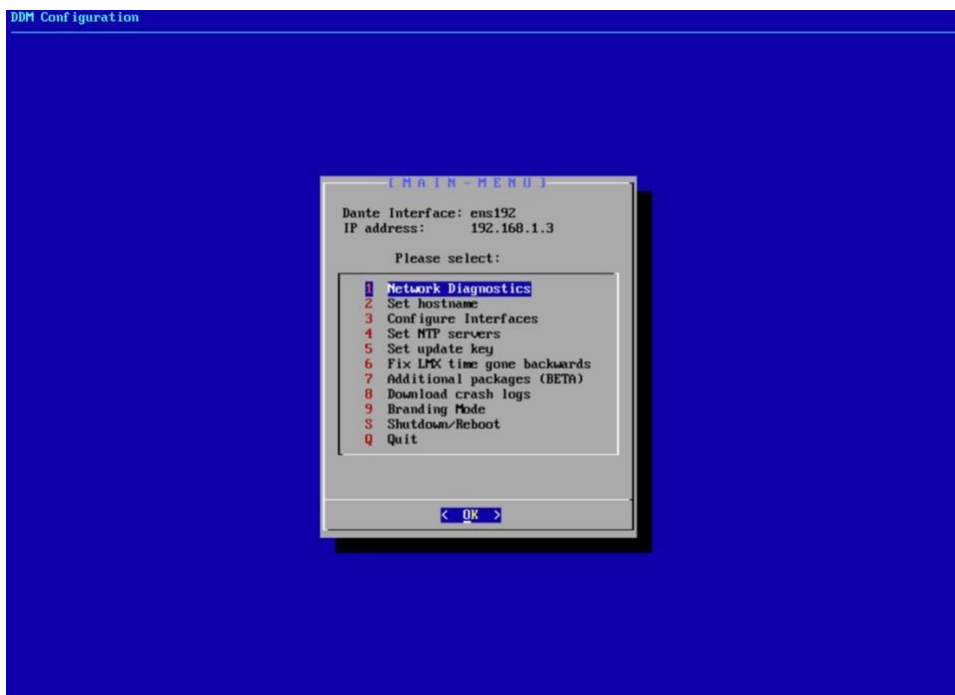
9. 設定を再度確認し**Finish**を選択し、設定が読み込まれるのを待ちます。設定のロードが完了するまではこのページを閉じないでください。

10. バーチャルマシンを起動してください。DDMのインストールスクリーン画面が表れ、**Install Dante Domain Manager**がハイライトされているのを確認してエンターを押します。



11. インストールの完了を待ちます。**Installation Complete**が表示されればインストール完了です。エンターを押してDDMの仮想マシンを再起動してください。
12. 仮想マシンを再起動するとDDMのインターフェースとなっているIPアドレスと、コンフィグメニューが表示されます。ウェブブラウザを立ち上げ、表示されていたDDMのIPアドレスを入力することでDDMソフトウェアのセットアップ画面が表示されます。ハイパーバイザのセットアップは以上です。(注釈:これ以降のセットアップについては、*Dante Domain Manager*のユーザーガイドを参照するか、次に記すURLからアクセスできるビデオ内15分10秒からの説明を参照ください。 <https://youtu.be/t-qiCYLXqkU?t=909>)

2. DDM管理者メニュー



Dante Domain Manager Administration Menu

2.1. Network Diagnostics

ネットワークダイアグ機能は、DDMサーバーに関連するネットワークの基礎的な設定状態を構築するにあたって行う高レベルなテストの際に使用します。詳細はDDMユーザーガイドのネットワークダイアグ結果のページを参照ください。

※ライセンスサーバーは<https://software-license-ddm.audinate.com>のポート番号 443です

2.2. Set Hostname

本設定ではホスト名を変更したい場合に使用ください。(例として、同サブネット内で2つのDDMサーバーを運用する場合など)

2.3. Configure Interfaces

DDMがネットワークに接続するために使用する、ネットワークインターフェースの設定に使用します。

2.4. Set NTP Servers

NTP (Network Time Protocol)サーバーの設定に使用します。

デフォルトでは、DDMがインストールされている仮想マシンは、時間をインターネット上のパブリックNTPサーバーから拾ってきます。そこから取得できなければ、ここで設定した一つもしくはそれ以上の代理NTPサーバーから時間を拾ってくるようになります。

注釈: DDMシステムがHAモードに設定されている、もしくはインターネットに接続されていない状況の場合は、正確な時間でデータベース複製をするために、ここで代替NTPサーバーを設定することをお勧めします。

2.5. Set Update Key

本項はAudinateのテクニカルサポートからの指示なしに設定および変更しないでください。

2.6. Fix LMX Time Gone Backwards

本項はAudinateのテクニカルサポートからの指示なしに設定および変更しないでください。

2.7. Additional Packages (BETA)

選択したLinuxパッケージをインストールすることができます。

2.8. Download Crash Logs

Audinateのテクニカルサポートからクラッシュログを求められた際に、クラッシュログ取得に使用します。この状況に陥った場合は、DDMのユーザーインターフェースは使用できません。

2.9. Branding Mode

DDMユーザーインターフェース上のメインメニューオプションにあるブランディング設定を有効もしくは無効にする際に使用します。詳細はDDMユーザーガイドのブランディング設定の項目を参照ください。

2.10. Shutdown/Reboot

DDMをシャットダウンもしくは再起動する際に使用します。

2.11. Quit

スタートメニューを終了し、VMメインコンソールに戻ります。

3. DDMのアクティベートおよびセットアップ

1. webブラウザ上で<http://<DDM仮想マシンのIPアドレス>>で検索をかけます。
2. 最初の画面でエンドユーザーライセンスアグリーメント(EULA)が表示されます。内容をよく読み“**I Accept**”でEULAに同意することで先に進みます。
3. 次にDante Domain Manager をセキュア通信するためのTLS認証をアップロードする画面が表示されます。この設定はこの場ではスキップすることができ、後で設定画面で変更することができます。TLS認証を使用したい場合は、DDMのユーザーガイドで参照してください。
4. 次の画面で、新規インストール(Fresh Installation)もしくは既存システムのバックアップファイルを使用したレストアインストール(Restore Installation)のどちらをするか選択します。既存のバックアップファイルがない場合は新規インストールを選択します。
5. インストールウィザードのStep 1として自身がエンドユーザーに対するサードパーティ (third party : システムインテグレーター、請負業者、コンサルタント 等)かエンドユーザーかを選択します。
6. Step 2では管理者(administrator)のユーザーパスワードを設定します。パスワードを入力したらエンターを押したあと、リカバリーコードを生成してメモなどに記録しておきます。リカバリーコードはパスワードを忘れた際に使用します。
7. Step 3ではDante Domain Managerのプロダクトキーを入力します。プロダクトキーを入力したらアクティベートボタンをクリックした先に進みます。**注釈:**本ステップではDDMサーバーをインターネット環境に接続する必要があります。
8. Step 4ではDDMサーバーのFQDNを入力します。デフォルトで設定したネットワーク環境に適したFQDNがあらかじめ設定されていますが、必要であればここで変更することができます。
9. Step 5では最初に定義するDanteドメインを設定します。任意のドメインの名前を入力しサブミットボタンをクリックします。ここで設定したドメインはあとで簡単に消去、リネーム、または新たなドメインを設定できます。
10. 以上で初期設定は終了です。デバイスページにてお持ちのDanteデバイスをドメインにエンロールしたりすることができます。
11. デバイスをエンロールしたら、Danteコントローラーを起動し、左上にあるDomainアイコンをクリックします。
12. 初期設定時に設定した管理者(administrator)のパスワードを入力してログインします。初回接続時は接続確認のダイアログが出ます。右上にあるドメインのタブを選択することでコントローラー上に表示するドメインを選択できます。